令和5年度 第1回倉敷科学センター協議会 議事録

【日 時】令和5年8月30日(水)18:30~21:21

【会 場】倉敷科学センター実験実習室及びプラネタリウム

【出席委員】桑本委員、中原委員、野呂委員、原委員、福田委員、福永委員、箕口委員、森川委員、山田委員

【欠席委員】末田委員

【事 務 局】森部長、田中所長、藤田館長、三島主幹、石井主幹、西村主幹

【傍 聴 者】1人

1 開会

(1)挨拶

【事務局】お見えになってらっしゃらない委員さんもおいでですが、定刻が参りましたので、 令和5年度第1回倉敷科学センター協議会を開催いたします。

私は、倉敷科学センター館長の藤田と申します。本日は全体の進行をさせていただきます。 どうぞよろしくお願いいたします。

まず会議の成立についてですが、倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により、委員の半数以上の出席をもって成立いたします。今日現在、委員は10名の方に委嘱しておりまして、ただいま8名出席されていますので、会議は成立しております。

なお会議は原則公開ということで、本日は傍聴者が1名いらっしゃいます。

それでは、お手元にお配りしております協議会要項に従って進めて参ります。まず、会議 に先立ち、教育委員会を代表いたしまして、生涯学習部長の森から御挨拶申し上げます。

【部 長】失礼いたします。教育委員会生涯学習部の森です。よろしくお願いいたします。

本日は、大変お忙しい中、また残暑厳しい中、倉敷科学センター協議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、委員の皆様方には、常日頃から科学センターの運営に御理解、御指導をいただきまして、心より感謝申し上げます。

委員の皆様には既に御存知かもしれませんが、科学センターを含むライフパーク倉敷は、今年の4月で開館30周年を迎えました。加えて、プラネタリウムがドイツで誕生してからちょうど100年目ということで、二つ重なった記念すべき年となっております。科学センターではこの機会を有効に活用し、プラネタリウムの歴史を紹介するパネルや、開館当時から25年間活躍してくれた旧プラネタリウム投影機の展示をしております。少しでもプラネタリウムの魅力の発信につながれば、と考えておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、令和2年から3年余りの長期に渡って私たちの生活にさまざまな制約をもたらしてきた新型コロナウイルス感染症が、5月のゴールデンウィーク明けに2類から5類へと扱いが変わりました。ここで初めて夏休みを迎え、コロナ前に比べ今年はどうだろうか、と心配と期待の入り混じった心持ちで見守っていたところ、まだまだマスクをしたり消毒をしたりと感染予防に配慮しながらではありますが、例年に近い方々が科学センター、ライフパークに集まって、なかなかの活気を見せている、ということで、一安心をしております。

こういったことが進めて来れましたのも、協議会の皆様の御助言、御指導、これに従って、 科学センターを運営してまいりました賜物であると、感謝申し上げます。

本日は、科学センターのプラネタリウムの番組の選考ですとか、去年1年間の実績、今年 の業務計画について、説明させていただこうと思っております。 科学センターの今後のより良い運営に資するためにも、協議会の委員の皆様から忌憚のない御意見をいただけたら、と考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、引き続き委員の皆様方には、科学センターの運営に対しましてお力 添えをいただきますよう、また本市の社会教育行政に対しましても、御理解、御指導をいた だきますよう、よろしくお願いいたします。そして、委員の皆様方のますますの御活躍を祈 念いたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(2)委員紹介(名簿順に自己紹介。末田委員の欠席、中原委員の遅参を事務局から伝達)

(中原委員が到着、自己紹介)

(3)事務局紹介(自己紹介)

2 会長、副会長の選任

【事務局】それでは、協議題に入りますが、7月1日に全委員の改選がありまして、まだ役職が決まっておりません。(倉敷科学センター条例施行規則第10条第2項の規定により)会長、副会長を委員の皆様の互選で決めていただくことになっておりますが、どなたか御推薦あるいは立候補がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

【特に意見なし】

【事務局】特に御意見がないようでしたら、事務局から提案してよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【事務局】それでは、引き続き学識経験者の委員の中からお願いしたいと思いますが、前の期の会長、副会長がお二方とも留任されていますので、会長は前会長の箕口委員に、副会長は同じく前副会長の山田委員にそれぞれお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

【拍手により承認】

【事務局】ありがとうございます。それでは、会長は箕口委員に、副会長は山田委員にそれぞれ決まりました。お二方は、それぞれ会長席、副会長席へと移動をお願いいたします。

(箕口委員、山田委員が席を移動)

3 諮問

【事務局】次に、本日御協議いただく事業計画について、次のとおり諮問させていただきます。 よろしくお願いいたします。

(諮問) 「令和5年11月期及び令和6年3月期全天周映画上映作品の選定について」

(藤田館長から箕口会長へ諮問書を手渡す)

4 報告・協議事項

【事務局】ここから議事進行を箕口会長さんにお願いしたいと思います。よろしくお願いいた します。

(ここから箕口会長が議事を進行)

(1)議事録署名人の選任

【会 長】ありがとうございます。それでは、これより箕口が議事進行をさせていただきます。 どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の議事録署名人を2名選任したいと思います。どなたか、自薦、他薦、ございますか。

【特に意見なし】

【会 長】特に自薦、他薦がないようでしたら、私の方で指名させていただいてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、中原委員さんと森川委員さんにお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、お二人の方、中原委員さんと森川委員さん、よろしくお願いいたします。

(2)【報告1】「令和4年度事業報告について」

(3)【報告2】「令和5年度事業計画について」

【会 長】はい。それでは議事の方を進めさせていただきます。

まずは「報告1」の「令和4年度事業報告について」と併せて「報告2」の「令和5年度 事業計画について」です。これは前回3月の協議会の際に、2月末までの実績で報告があっ たことですが、事務局から改めて説明をお願いします。

【事務局】はい。「報告1」と「報告2」についてですが、お手元にある「資料1-1」から「資料3-2」までを御覧ください。いずれも前回3月30日の協議会の場で、2月末締め時点での状況を報告し、御承認いただいている事項で、今回、年度末でまとめ直しています。「令和4年度事業報告」については、「資料1-1」から「資料1-3」までの各種統計情報並びに「資料2-1」と「資料2-2」の各事業の実績を年度末時点の数字に置き換えた上で、それぞれの決算見込額を記入した資料です。また「資料3-1」と「資料3-2」の「令和5年度事業計画」については、本年度の当初予算額を記入した資料で、それぞれ今回の開催通知と併せて予め皆様にお送りし、事前に目を通していただいた上で、本日この協議会の場で御意見、御質問等を伺うこととしておりました。

まず「資料1-1」は月別の入館者数で、右下にあります123, 792人が昨年度の最終的な総入館者数となりました。

「資料1-2」の説明は省略させていただきます。

「資料1-3」では、直近10年間の「夏休み企画展の内容と8月の入館者数」という資料があるんですが、今年度の夏休みの入館者数はどうだったのか、ということで、8月の科学展示室の入館者数を直近10年間と比較し、グラフ化した資料を「資料3-2」の次に添付しております。統計上は科学展示室の入館者数を夏休み企画展の入館者数と見なしていまして、プラネタリウムや各種講座も含む全体の入館者数を集計した「資料1-3」の数字とは異なっていますが、御承知おきください。なぜ8月だけ比較しているかというと、8月のお盆休みに当たる1週間程度の期間が、ゴールデンウィークとともに年間通じて最もお客様の多い時期になるということと、8月の入館状況が、年間の勢いにつながり、その年度全体の入館者数を予想する上で、重要な数字になっていると考えられるためです。

その前提でグラフを見ると、右端の令和5年度は18,376人、これは昨日、29日までの集計ですが、ほぼ8月全体の数字になると思います。直近3年間はコロナ禍で入館制限をしたり、また令和2年度は夏休み企画展を中止したり、ということもあって、確かに段階的に徐々に増えてはいるものの、コロナ禍以前と比べるとかなり少なかったという状況です。しかし、コロナ禍直前の令和元年度を見ると、この年はプラネタリウムをリニューアルした直後で、企画展は恐竜展ほど大人気を博すような内容ではなかったんですが、新しいプラネタリウムをぜひ鑑賞したいというお客様が大勢来館され、併せて展示室も利用が増えたと思われる年なんですが、約2万人に上る19,758人は、これより多い年がすべて恐竜展を開催していることから、かなり多かった年と言えます。それに迫る今年の数字は、お客様のマインドとしては、コロナ禍前のように自由に科学館に来ていいんだ、という感覚がかなり戻って来ているのではないかと感じたところです。

「資料3-1」と「資料3-2」の「令和5年度事業計画」については、当初予算の額が盛り込まれただけで、事業計画の内容自体に変更はありません。以上です。

- 【会 長】ありがとうございました。ただ今説明のあった「令和4年度事業報告」及び「令和 5年度事業計画」について、何か御意見、御質問はございますか。
- 【委員】すみません。先ほど説明された資料のグラフの件ですが、恐竜展を多く実施していて、それ以外の平成25年、平成28年を除いては入館者数が多くなっているということですが、コロナ禍の3年間は除いても、年々減ってきているのが気になります。単に倉敷市の子どもの数が減ってきているのか、最盛期に比べて3分の2程度まで下がっていることについて、原因が分かるようでしたら、教えていただきたいです。
- 【事務局】はい。平成26年度と平成27年度が突出しているんですが、平成26年度については、(動いて鳴くティラノサウルスの巨大な模型をはじめとした、) 恐竜をメインにした企画展であったということと、映画の方も (BBC アース制作で子どもたちに人気の高い「ウォーキング with ダイナソー」という) 恐竜映画ということで、恐竜を強力にプッシュした年でした。前年度の企画展が (世界中のロケットの100分の1スケールのペーパークラフトと探査機ハヤブサの実物大模型をメインとした静的な展示物ばかりだったことで) 小さなお子さん向けのアピールが弱く、実際あまり来館者が伸びなかったことから、思い切り小さなお子さん向けにアピールする内容に振った企画展を開催したところ、強い反動のような勢いもあって来館者数が伸びたようです。

その翌年の平成27年度は、自然史博物館と共催で、林原の博物館が閉館した折に、収蔵物を岡山理科大学などが引き受けた中で、倉敷市も一部引き受けることになって、その貴重な林原コレクションをお披露目する企画展を自然史博物館で企画していたんですが、目玉となるティラノサウルスの全身骨格標本のレプリカがかなり大きく、自然史博物館では展示できるスペースがないということで、会場をライフパーク倉敷に選定し、科学センターと共催という形で実現した企画展でした。当館としては2年連続で恐竜展を実施したことがなかったんですが、ティラノサウルスの全身骨格標本のレプリカをぜひお披露目したいということで、引き受けたところ、思いのほか人気が高まり、来館者数が増えたという結果でした。

それ以降は、恐竜展以外にはデジタルコンテンツをメインとした企画展などを行っているんですが、全体的に減少傾向にあるとの御指摘については、単に倉敷市の子どもの数が減少しているということばかりでなく、常設の展示物が、開館して15年でリニューアルしてからまた15年経つということで、やはり当館をたびたび御利用いただくお客様にとっては、年々展示物が陳腐化して、物足りなさを感じられてきているのではないか、という懸念を抱いています。5年前にプラネタリウムをリニューアルさせていただいて、次は展示室の番かな、という課題意識は持っております。

【会 長】ありがとうございました。ほかに、何か御意見、御質問はございますか。

【特に意見なし】

【会 長】それでは、御意見、御質問は出尽くしたということで、「報告1」と「報告2」については、認められたということとさせていただきます。

【全員異議なし】

(4) 【報告3】「旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室について」

【会 長】次に「報告3」の「旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局】はい。お手元にある「資料6」、カラー写真のページを御覧ください。

【所 長】私の方から説明させていただきます。

皆さん御承知のとおり、こちらのライフパーク倉敷の正面玄関向かって左手、敷地の南側にある旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室は、倉敷市が公益財団法人倉敷天文台から譲り受け、平成25年8月、ほぼ往時のままに移築・復元した国登録有形文化財です。

こちらのスライディングルーフ観測室は、毎年ライフパークへたくさんの子どもたちが集まるこどもの日や、秋の敬老の日もしくは秋分の日などに一般公開しておりまして、昨年度は5月のこどもの日のイベントで太陽観察会の会場として一般公開しましたが、その後コロナの感染者数が増えたということで、秋口の公開は実施していませんでした。

その後、年末に掃除を行った際に、木の柱等に傷みが進んでいることが分かり、6月の議会でも質問を受けたところでして、今日は、その後の経過を報告させていただきます。

まず、7月にスライディングルーフ観測室を移築した業者と現場を確認し、文化庁とも相談をした上で、今この建物自体を維持するための必要最小限の補修を行うこととし、7月中に応急の補修・修繕を終えています。

「資料6」の右上にある写真が移築した当時の状況です。破風板とその延長レールに沿って切妻式の屋根が東西にスライドして開閉することからスライディングルーフと呼ばれるもので、開いた屋根は東西3本ずつの柱で支える構造になっています。

裏面「資料6-2」の写真を見ていただくと、見えている右側の柱、方角で言うと北東側の柱と対角線上の南西の柱が非常に傷んでいるということで、今回補修工事を行っています。ただ、柱の補修だけでは屋根の荷重に耐えられないおそれがあるということで、補強ために柱2本と筋交いなどを追加しております。これらの補修工事が終わった後、8月に一度屋根の開閉を試しておりまして、今のところ、今回の補修によって屋根はスライド開閉できるということを確認しております。

また、もう一点課題がありまして、側面、特に南側の壁の塗装が、風雨や太陽光などにさらされた影響で非常に傷んでおりました。こちらの塗装についても業者と打合せをしているところですが、百年近く前にできた当時の木材などもできるだけ使ったりしておりますので、そのまま再塗装で良いのか、もう少し補修が必要なのかというところを建築の技師や文化庁と相談しながら、もうまもなく来月以降になりますが着手しようと進めているところです。

まだ途中経過ではありますが、旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室の現状と補修の 状況について、報告させていただきました。本日は照明も点いておりませんので、帰りに立 ち寄って御覧いただくのは難しいかと思います。また晴れた日中にでもお立ち寄りいただい て、現地の状況を確認いただければと思います。よろしくお願いいたします。以上です。

【会 長】ありがとうございました。それでは旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室について、何か御意見、御質問はございますか。

【特に意見なし】

【会 長】特に御意見、御質問はないようですので、「報告3」については、 認められたということとさせていただきます。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、次に「令和5年11月期及び令和6年3月期全天周映画上映作品の選定」について協議するため、会場の移動をお願いいたします。

本日上映していただくのは、『しまじろう まほうのしまのだいぼうけん』、『ネイチャー リウム 星の旅 世界編』、『タッチ・ザ・スター』の3本です。10分後に上映を予定して おります。

【事務局】プラネタリウムの方へ移動をお願いします。貴重品のみお持ちいただいて、荷物は このまま部屋に置いていただいて差し支えありません。

> (プラネタリウムに移動) ープラネタリウムで全天周映画候補作品試写を鑑賞ー (上映終了後、実験実習室に移動)

(5) 【協議】令和5年11月期及び令和6年3月期全天周映画上映作品の選定について

【会 長】それでは全天周映画上映作品について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】失礼します。まずは長時間に渡りまして、3本の映画を御覧いただきました。ありがとうございました。お疲れさまでした。

資料につきましては、「資料4」と「資料5」、それからこちらのチラシを御覧ください。 まず、「資料4-1」ページ「全天周映画上映作品の選定について」を御覧いただきたい と思います。

全天周映画は年間3本、7月と11月と3月に新作を投入しております。今回選定していただくのは、「作品①」と表記しております今年の11月から上映する作品と、「作品②」と表記しております来年3月から上映する作品です。

すみません、(「資料4-1」の「1 上映期間」の)「上映スケジュール案」という表があるんですが、「火〜金15:10〜」に、去年の作品を載せていました。『恐竜超世界』は去年の作品で、今は『ダイナソー・サバイバル』を上映しています。失礼いたしました。

さて、候補となる3本の作品は、先ほど御覧いただいた分ですが、「資料4-2」ページに評価がございます。下の方に「総合評価ランキング」がありますが、科学センターの職員を対象とした試写を行いまして、どういう作品を今回掛けさせていただいたか、ということになります。

その次の「資料4-3」ページは、最近の上映作品の一覧です。

次に、「資料5」、「全天周映画の作品選定のガイドライン」を御覧ください。

先ほどお話しましたように年間3本、7月と11月と3月に新作を投入します。

下の方、「3 選定の目安」を御覧ください。読み上げます。

「(1)科学を学び楽しむという視点、あるいは教育的・福祉的な価値が認められるという視点から大きく逸脱していないこと」、「(2)ドーム全体に迫力ある映像を映し出せるという全天周映画の魅力を十分に発揮できる映像構成、映写フォーマットであること」、「(3)近隣の施設の上映実績と比較し、競争力を意識した選定が行われていることが好ましい」

それで言うと、真ん中、2回目に掛けた『星の旅 世界編』は、実は浅口市の岡山天文博物館で5年前に上映した作品ですが、すでに5年経っているということで、大丈夫かなということで候補に挙がっています。

それから「(4)科学教育と集客両面の効果を最大に発揮させるため、年間に上映される3作品は、次の3つの資質に沿って各1作品ずつ選定されることが望ましい」ということなんですが、単純に言うと、「恐竜が人気あるからと言って、(年間3本のすべての選定において)恐竜ばかり選ばないでくださいね」ということで、今上映している『眠れない夜の月』、『ダイナソー・サバイバル』、これらの作品との組み合わせというのも考慮していただけたら、と思います。

これらを基に、いずれの作品が科学センターで上映する作品として相応しいか、御協議願います。以上です。

【会 長】ありがとうございます。それでは委員の皆様に御協議いただきたいと思います。どなたか、上映作品について、御意見、御質問等ございますでしょうか。

【特に自発的に発言を求める者なし】

- 【会 長】ないようでしたら、お一人ずつ名簿の順番に御意見、御感想等をお伺いしたいと思います。最初の委員の方、お願いいたします。
- 【委員】はい。中学校理科の教科書の内容で言うと、なかなか子どもたちが空間的な理解を してもらえないところがあるんですが、『星の旅』は、その辺りを上手に表現されていたよ うに思いました。
- 【会 長】ありがとうございました。次の委員の方、お願いいたします。
- 【委員】『星の旅』は5年前に(近隣他施設で)上映があったということですが、観ていて、ずっと星ばかりで説明もなく、物悲しい音楽がずっと流れてきていて、子どもたちが観るには、ちょっと飽きてしまうかなぁ、と思いました。

『しまじろう』に関しては、子ども向けで(「互いに家族を思いやる気持ちが大切」というような)テーマもあって良いと思いました。

最後の『タッチ・ザ・スター』は、それまで宇宙に関するテーマの(上映が続いているという)流れがあり、比較的小さい子どもも興味を持ちやすいとうことと、説明もあったので良いのかな、と思いました。

『星の旅』は迫力があって見応えはあったんですけど、同じような感じ (の映像が続いて) でちょっと長かったのが気になりました。

- 【会 長】はい、ありがとうございます。次の委員の方、お願いいたします。
- 【委員】個人的な好みとしては、『星の旅』が良かったです。以上です。
- 【会 長】ありがとうございます。では、次の委員の方、いかがでしょうか。

【委員】作品のローテーションのことを言うと、(令和6年3月上映開始の)「作品②」は『しまじろう』かな、という感じで、『眠れない夜の月』の後ですし、すごくおもしろかったし、楽しかったし、子どもには良いのかな、と思いました。

(令和5年11月上映開始の)「作品①」の場合は、それぞれ素晴らしいな、と思ったんですが、私は『星の旅』を推したいな、と思いました。

- 【会 長】はい、ありがとうございます。では続きまして、次の委員の方、お願いします。
- 【委 員】「作品②」の方は、たぶん『しまじろう』でないと、バランスが悪いだろうな、と思っています。

「作品①」の方は、KAGAYA さん(『星の旅』)と『タッチ・ザ・スター』のどちらか、上(『星の旅』)は実写ベースで下(『タッチ・ザ・スター』)は CG ベースで、どちらも迫力があって、良かったところがあって、悩むところですね。世界旅行するのが上で、下が今後の宇宙探査の話の最後まで含まれていて、ちょうど JAXA の宇宙飛行士さんのプロジェクトが、あの(作品の中の)プロジェクトになるので、そういう呼び込みをしたいということがあれば『タッチ・ザ・スター』でも良いかなと思いました。

- 【会 長】はい、ありがとうございます。では、次の委員の方、いかがでしょう。
- 【委 員】「作品②」は『しまじろう』で、ターゲットが子ども向けというのでちょうど良いのかな、と思いました。

(残り2作品は) どちらも良かったんですが、『タッチ・ザ・スター』の方が、ストーリーというか、流れ的には子どもでも興味のある人にとっては、すごくおもしろいんじゃないかな、と思い、こちらを推します。

- 【会 長】はい、ありがとうございます。では、次の委員の方、お願いします。
- 【委 員】去年まで小学校の教員をしていたので、その視点で考えると『しまじろう』と『星 の旅』が良いな、と思いました。

3番目の作品(『タッチ・ザ・スター』) は、ちょっと内容的にはすごく難しくて、大人が観ると楽しめるんですけど、子どもの興味の幅からいうと、少し難しいかな、という気がしました。

- 【会 長】ありがとうございました。では、最後の委員の方、お願いいたします。
- 【委 員】皆さんとほぼ同じような意見でもあるんですが、『しまじろう』は確定だと思うんですが、残り2作品、確かに似通ったというか、どちらも良い作品だと思うんですが、前作の『アポロストーリー』の後で、ということで、『アポロストーリー』は大人向けなんで、大人向けの作品も、一つあって良いのかな、ということで、『タッチ・ザ・スター』の方が解説もあって(分かりやすい)という感じで、私は(『タッチ・ザ・スター』が良いと)思っています。
- 【会 長】ありがとうございました。では、私からも感想を。

『しまじろう』は確定かな、と思いながら観ていたのは(他の委員から出た意見と)同じです。 (残り2作品は) どちらか悩むところなんですけど、『タッチ・ザ・スター』の方は、すごく スピード感もあって、なかなか迫力の映像、というのと、全天周というところで観るという と、『星の旅』がホントに夜空を見上げているような感じが素敵だな、というところもあるんですが、どちらも長いというところは、悩むところなんですけど。

さて、どういたしましょうか。

今ちょうど数的には意見が同じくらいで分かれているという感じなんですけれど、事務局の方、多数決とかで決めた方がいいでしょうか。

【事務局】きっちり(『ネイチャーリウム 星の旅 世界編』と『タッチ・ザ・スター』のどちらが良いか 賛成意見の)数字を採っていただいた方が良いと思います。

【会 長】分かりました。では、挙手をお願いいたします。

まず、『星の旅』が良いと思われる方、手を挙げていただいてよろしいでしょうか。

【4名举手】

【会 長】自分を入れると5名ですので、『タッチ・ザ・スター』の方は残りの4名ということで僅差になりますね。ありがとうございます。

では、決めるのはなかなか難しいところではあるんですけれど、多数決を採らせていただいて、『ネイチャーリウム 星の旅 世界編』の方が、挙手が5名ということになりましたので、11月から上映の「作品①」の方としてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】そして、3月から上映する「作品②」については、先ほど御意見を伺った流れから、 『しまじろう まほうのしまのだいぼうけん』に決めさせていただきたいと思います。

【全員異議なし】

【会 長】その他について、何かございますでしょうか。

【特に発言を求める者なし】

【会長】はい、それでは本日の協議事項・報告事項のすべてを終了しました。

最後に、諮問についての答申内容の確認をいたします。

「令和5年11月期及び令和6年3月期全天周映画上映作品の選定について」ですが、先ほどの結論どおり、令和5年11月期に『ネイチャーリウム 星の旅 世界編』を、令和6年3月期に『しまじろう まほうのしまのだいぼうけん』をそれぞれ上映作品として選定するという内容で答申書を作成することとしてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】ありがとうございます。

それでは、本日協議会で議論すべき事項は、すべて終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

(ここから事務局が進行)

【事務局】長時間に渡り、熱心に御審議をいただき、誠にありがとうございました。

最終確認なんですが、『星の旅』の決については4対4の同数で、(倉敷科学センター条例施行規則第10条第7項の規定により)会長が最終的に決したという結論でよろしいでしょうか。

【会長】はい。

【事務局】ありがとうございます。

それでは最後に、一点事務局から御連絡申し上げます。

次回もう1回年度内、2月から3月にかけて、第2回の協議会を予定しております。次の協議事項の主な内容は、来年7月から上映開始する全天周映画の作品の選定、そして来年度の夏休み企画展の選定の御協議をしていただく予定です。また時期が参りましたら日程調整の御連絡を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

以上で、令和5年度第1回倉敷科学センター協議会を閉会いたします。

一以上一

令和5年8月30日

会 集 箕口 けい子 議事録署名人 中原 貴子 議事録署名人 森川 友美